

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第94号

平成27年 7・8・9月



国宝 阿弥陀三尊像（伝橘夫人念持仏） 奈良・法隆寺

特別展

開館120年記念特別展

白 鳳

—花ひらく仏教美術—

7月18日(土)～9月23日(水・祝)  
東・西新館

名品展

中国古代青銅器

通期開催  
青銅器館

開館一二〇年記念特別展

# 白鳳

―花ひらく仏教美術―

7月18日(土)～9月23日(水・祝)

奈良国立博物館では開館一二〇年を記念し、特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』を開催いたします。仏教美術の専門館である当館が、長年にわたり構想を温めてきた展覧会で

す。  
「白鳳」とは七世紀後半から和銅三年(七一〇)に平城京に遷都するまでの時期をさす言葉で、主に美術史学で用いられてきました。この時代、天皇を中心とした国造りが本格化し、仏教が全国へと広まり、造寺造仏活動が飛躍的に発展しました。そんな時代の雰囲気や反映し、若々しく瑞々しい仏教美術が花ひらいたのです。

しかし「白鳳」については、時代区分や定義をめぐる研究者の間で論争を生んできました。「白鳳」という時代の存在自体を否定する考えさえあります。しかし、「白鳳」は飛鳥時代や奈良時代に匹敵する六〇年ほどの長い期間にわたっており、白鳳美術が飛鳥美術とも天平美術とも異なる、独自の個性を持ち、一つの時代を形成していることは多くの人が認めるところです。

本展は、金銅仏をはじめ、埴仏などの考古遺物、工芸品など、白鳳時代の代表作品約一五〇件が一同に会する空前の規模の展覧会となります。



◎伝虚空蔵菩薩立像(奈良・法輪寺)



◎銀菩薩立像(夢違観音)(奈良・法隆寺)



◎金堂天蓋附属品 飛天(奈良・法隆寺)



◎弥勒菩薩半跏像(大阪・野中寺)



◎聖観世音菩薩立像(奈良・薬師寺)



◎月光菩薩立像(奈良・薬師寺)



◎ 押出阿弥陀五尊像 (東京国立博物館 法隆寺献納宝物)



◎ 金銅小幡 (東京国立博物館 法隆寺献納宝物)



◎ 法華說相圖 (奈良・長谷寺)



◎ 釈迦如来倚像 (東京・深大寺)



◎ 龍首水瓶 (東京国立博物館 法隆寺献納宝物)



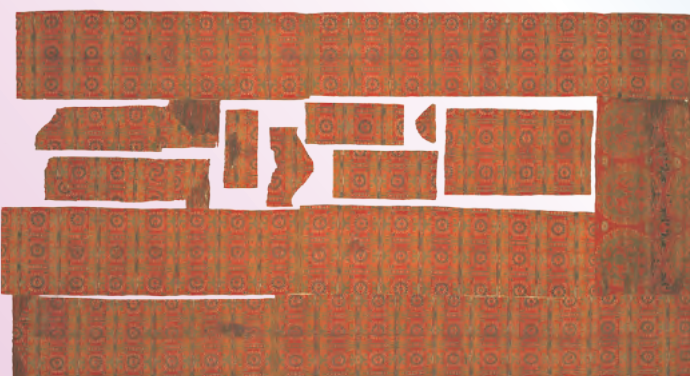
◎ 持国天立像 (奈良・當麻寺)



◎ 觀音菩薩立像 (奈良・法隆寺)  
● Ⅱ 国宝 ◎ Ⅱ 重要文化財  
※ 会期中展示替があります



◎ 蜀江錦 (奈良・法隆寺)



# 中国の博物館事情（在外研修見学記）

岩戸 晶子（当館学芸部研究員）

昨年十二月から今年の三月にかけて、文部科学省の学芸員等在外派遣研修として中国で勉強する機会を得た。中国にはこれまで調査に赴く機会がそれほどなく、特に一人での中国行きは初めてだったため、中国語を特訓し、柄にもなく若干緊張しながら出発した。

今回の研修の目的は第一に中国の博物館システムに関して知見を深めること、そして第二に自分の研究分野に関連して特に古代の瓦や屋根に関する勉強をすることであった。

中国は目覚ましい経済発展を背景に、文化行政も積極的である。新しい博物館や遺跡整備が新規に進められるだけでなく省を代表する山西博物院や河北博物院



唐大明宮含元殿基壇から復元丹鳳門を望む

などの博物館では大規模な建替えやリニューアルを行い、洗練された展示を見ることができた。

また、近年、展示施設や復元建物を備えた一大テーマパーク的な遺跡公園が各所で整備されている。意外であったのはその多くが民間の手によるものだったということだ。国や地方自治体が遺跡を整備し、管理する日本と違って、完全なる民間団体がそうした「事業」を行っていた。西安市内にある大唐西市博物館と大明宮国家遺跡公園もそうしたものの一つである。

前者は唐の都、長安に設けられた公的な市場（西市）の遺構の上に立っている。周囲の広場では唐文化にちなんだ様々なイベントが行われ、ショッピングモールやホテルも併設されて賑わう一角に博物館はある。民間博物館という先入観を裏切る、大規模な施設と質量ともに見応え十分な展示品。他施設との相乗効果であろうか、博物館の人出もなかなか盛況であった。

後者の大明宮は唐代の宮殿遺跡であり、その調査や整備には当館と同じ独立行政法人に属する奈良文化財研究所が長年関わってきていた。十年程前に立ち寄った時は街中に遺跡を示す石碑が立っているだけであったが、今回訪ねてみると三・五平方キロメートルもの広大な遺跡公園になっていて驚いた。いくつもの展示館、復元された巨大建物基壇、シアター上映館などが点在し、無料ゾーンは市民の憩いの場になっていた。

驚くことに、この遺跡公園は二〇〇六年に整備計画が作成され、翌年から整備事業開始、二〇一〇年には

オープンしたという。住民の立ち退き・街区の撤去、発掘調査、各建物の建設：そのスピードに中国の勢いが感じられるが、それ以上にそうした民間ベースの博物館や遺跡整備が進むのは、そこに収入が見込めるからであってそれだけの人々が足を運ぶということであろう。また、その民間博物館に携わる人々は日本から来た私とも交流や情報交換に非常に積極的であった。

実は中国では公的な博物館の入場は無料ながら、遺跡公園や民間の博物館の入場料は意外に高い。それにも関わらず、老若男女が遺跡や展示を見学するために集まっており、特に若年層の多さは羨ましいほどであった。もちろん、中国の歴史や文化を愛することが奨励され、それによって十二億の人々をまとめるようなという国家政策も大きく影響しているに違いない。ただ、経済発展の中でも中国人は中国の伝統文化への愛着がとても強いことが处处で感じられた。今も中国の子どもたちは幼いうちから唐詩選（とうしせん）を読み（本屋に絵本が山積みだった）、千字文（せんじもん）で字を練習する。超高層のマンションに住んでいてもその部屋には書や青磁（せいし）の壺（つぼ）が飾られている。古美術への愛着が現代もかなり広く普及しているようなのだ。生活スタイルが西洋化し、床の間や和室などが身の回りから消え、書道や茶道といったものも特別なものになりつつある日本とは対照的であった。

とはいえ、現代の遣唐使（私）は中国の右肩上がり（さだか）の経済成長がスピードダウンした時、多くの大規模な民間博物館や遺跡公園がどのような状況になっていくのか：バブル後の日本の状況をふりかえり、一様の不安を抱きつつ帰国の途についていた。



# 奈良国立博物館一二〇年の歩み — 陳列館を中心に —

野尻 忠（当館学芸部企画室長）

今年、平成二十七年（二〇一五）の四月二十九日、奈良国立博物館は開館から一二〇年の記念日を迎えた。一二〇年前の明治二十八年（一八九五）当時、当館の施設名は「帝国奈良博物館」であり、所管は宮内省であった（その後、文部省・文部科学省の所管を経て、現在は独立行政法人国立文化財機構の一施設）。

話は開館からやや遡ることになるが、明治二十二年（一八八九）のこと、すでに活動を開始していた東京の博物館（現在の東京国立博物館）を「帝国博物館」

とし、その統括のもとに帝国京都博物館と帝国奈良博物館を設置することが決定された。これが現在へと続く奈良国立博物館の創立ということになる。建設地として奈良公園の一部が充てられ、明治二十五年六月に陳列館の建設を開始し、同二十七年十二月に竣工した。そして翌二十八年四月に開館の日を迎える。

当館においては、この開館当初から立つ本館（図1。現在のならん像館。「旧帝国奈良博物館本館」の名で重要文化財に指定）が、長い間、唯一の陳列館であった。



図2 昭和41年(1966)、第19回正倉院展



図1 開館の頃の当館



図4 現在の八窓庵



図3 平成10年(1998)、東新館オープン  
奥が東新館、手前が西新館

が、戦後に正倉院展が毎年開催されるようになったこともあり（図2）、展示スペースが手狭になってきたため、昭和三十年（一九五五）頃から新館の建設が模索され、ようやく昭和四十二年に動き始める。そして昭和四十八年四月二十九日、当館七十八歳の誕生日に、新館（現在の西新館）開館記念展がオープンした。しかし、その後も漸次入館者数は増加し、殊に正倉院展における混雑の問題は深刻であった。昭和末年には展示面積拡張の構想が持ち上がり、その構想は平成五年（一九九三）に具体化して、平成六年より同九年にかけて現在の東新館が建設される。そして同十年四月二十五日、当館百三歳の誕生日の四日前に、東新館開館記念の特別展が開幕した（図3）。

東新館の建設により、収蔵スペースが新館に一元化されることとなり、それまで昭和十二年（一九三七）十月竣工の二階建て収蔵庫（本館の南側に立つ）に収められていた藏品も新館の収蔵庫に移された。藏品が移された後、しばらく空きスペースとなっていた二階建て収蔵庫は、平成十四年（二〇〇二）、改修のうえ中国古代青銅器（坂本コレクション）の常設展示室として使用されるようになり、現在に至っている。

さて、陳列館以外にも当館には様々な建物があり、また、かつてあった。現役のものに、明治三十五年（一九〇二）竣工の旧奈良県物産陳列所（現在の仏教美術資料研究センター）、大正三年（一九一四）頃に正倉院掛の古裂修理作業室として建設された平屋木造建物（現在は茶室控室として使用）などがあるが、さらに古いものとして、明治二十七年の本館竣工より前から当館の敷地に立つ建物がある。それが茶室の八窓庵（図4）で、現在は西新館南側の庭園内に所在する。この建物は、もと興福寺大乗院にあったが、明治初年に他所へ売却されようとしていたところを地元の有志がこれを停め、明治二十三年、当時設置が決定したばかりの帝国奈良博物館に献納することになったものである。今から一二〇年前、当時の博物館開設に対する地元の期待の大きさを窺わせるエピソードである。

◆七月十八日より地下回廊において、開館一二〇年記念「写真でたどる奈良国立博物館のあゆみ」（パネル展示）を開催します。

## 名品展

### 中国古代青銅器

（坂本コレクション）

青銅器館

中国古代の商（殷）から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。爵、觚、罍、長頸尊、觚形尊、罍、方彝、卣、甗、鬲、鼎、鬲、高、簋、豆、盤、匜、盃、壺、鏡、鐙など（すべて当館）

## 【表紙写真解説】

### 国宝 阿弥陀如来三尊像

（伝橘夫人念持仏）

銅造 鍍金  
像高（中尊）三三・三・三 cm  
（両脇侍）二七・〇 cm  
白鳳時代（七世紀）  
奈良・法隆寺

橘夫人（県犬養橘三千代）（？）

七三三）の念持仏であったと伝承される阿弥陀三尊像。橘夫人は橘諸兄や光明皇后の母であり、天武・持統・文武・元明の四代の天皇に仕え、また元正天皇や聖武天皇とも密接な関係を有し、白鳳から天平前期の宮廷において重要な役割を果たした女性である。

本作は、蓮池を表した金銅板から生い出る三茎の蓮華上に、坐し、あるいは立つ三尊像を中心とする。中尊頭部の後方には華麗な透彫りの頭光があり、さらに背後には後屏が立ち、ここに阿弥陀如来の住む極楽浄土に転生した菩薩や化仏、蓮華や蓮葉、さらに雲文などが濃密に表される。これらを納める木製の厨子にも菩薩や僧形が描かれる。

当時の金工・彫塑ならびに木工技術の粋を尽くした本作は、高貴な人物に関わるものであるが、橘三千代であれば不足はない。彼女はその邸内に私的な持仏堂と見られる「観無量寿堂」を有していたと思しく、阿弥陀信仰の徒でもあったと見られる。

岩田 茂樹（当館学芸部上席研究員）

❖ サンデートーク ❖

奈良博で通なお話♪

毎月1回、当館の研究員や専門家がとっておきのお話をいたします。美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

7月19日(日) 「平安時代の密教修法」

斎木 涼子(当館学芸部研究員)

平安時代の初めに本格的な密教が伝わって以降、数多くの密教修法が行われました。国家平安から個人的な祈りまで、様々な願いが込められた修法のかたちについて紹介します。

8月16日(日) 「文化財を科学するⅡ」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

文化財を科学的に調査するといろいろな発見があります。今回は東大寺盧舎那仏像の原料の産地など、文化財と金属に関していくつかお話しします。

9月27日(日) 「第6回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」

吉澤 悟(当館学芸部列品室長)

奈良国立博物館の庭園にひっそり佇む八窓庵。江戸中期に建てられた織部好みの名茶室です。普段は見られない茶室の内部をご案内いたします。雨天の場合は講堂で写真解説いたします。

10月11日(日) 「偏衫をめぐる」

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

「偏衫(編衫・へんざん)」という法衣があります。仏像や僧侶の衣として用いられるこの法衣の起源を、仏像や僧侶像からたどっていきます。

11月29日(日) 「東大寺僧形八幡神坐像・再説」

岩田 茂樹(当館学芸部上席研究員)

東大寺の鎮守八幡宮の神体であった僧形八幡神坐像は、像内に長文の銘記があり、多くの情報が得られますが、本像の造像を主宰したと考えられる俊乗房重源の名が見いだせないという大きな謎があります。この謎に対する解答を試みる二度目のチャレンジです。

12月20日(日) 「仏伝図の世界—ブッダの生涯を旅する」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

仏教の開祖・釈迦の誕生から涅槃にいたる事蹟を描く仏伝図。インドの聖地をめぐる現地調査の成果を踏まえながら、日本に伝わった絵巻や掛軸絵伝の代表作を通じて、ブッダの物語を読み解いていきます。

- ◆各回とも14:00より15:30まで(13:30に開場)。
- ◆定員194名(先着順)。当館講堂にて。聴講無料。
- ◆事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

❖ イベント情報 ❖

◆夏休み親子のワークショップ◆

「はとけさまの切り絵をつくろう!」

日 時: 8月1日(土)

①10:30~②13:00~③15:00~(各回1時間程度)

会 場: 当館地下回廊

講 師: 西村幸祐さん(切り絵作家)

対 象: 小学校3年生以上のお子様とその保護者

参加費: 無料

定 員: 各回7組14名 計42名

※イベントの詳細および申し込み方法は、当館ホームページをご覧ください。下記へお問い合わせ下さい。

奈良国立博物館総務課企画推進係

TEL 0742-22-4450(平日の10:00~17:00)

❖ イベント情報 ❖

◆仏像あたまを作っちゃおう! かぶっちゃおう!◆

1枚の紙で作るカブリモノ制作・変身ワークショップ

日 時: 8月8日(土)、9日(日)

いずれも1回目は13:30~14:30、

2回目は15:30~16:30

場 所: 当館 地下回廊

講 師: チャッピー岡本さん(カブリモノ作家)

応募方法: はがきに、郵便番号・住所・氏名・参加者の年齢・電話番号・希望日時(例: 8日(土)1回目)を書いて、以下の宛先にお送り下さい。

申込・問合せ先: 〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-18

NHKプラネット近畿「カブリモノワークショップ」係

TEL 06-6945-7101

- ◆参加費無料。
- ◆定員各回20名。先着順で受付、応募が定員に達した場合はメ切とします。小学校低学年までの児童については保護者の付き添いが必要です。



◆ 奈良国立博物館文化大使  
「笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座」 ◆

日 時: 8月12日(水) 13:30~14:30(13:00に開場)

会 場: 当館 講堂

申込方法: 往復はがきに、イベント名「仏教講座」・住所・氏名・電話番号を書き、返信面に宛先・住所を書いて以下の宛先にお送り下さい。はがき1枚につき、1名様の申込となります(重複申込無効)。

宛 先: 〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 総務課企画推進係

TEL 0742-22-4450(平日の10:00~17:00)

- ◆定員189名。申し込みが多い場合は、抽選になります。
- ◆聴講無料。ただし入場の際には、特別展「白鳳」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。



◆夏休み親子講座 「守ろう!知ろう!文化財」◆

日 時: 8月29日(土)10:00~15:00(受付9:30~)

〔午前のテーマ〕「文化財と防災 守ろう!」

奈良市消防局による防災についてのお話、  
防火衣の着用体験、仏像搬出体験

〔午後のテーマ〕「仏像いろいろ 知ろう!」

仏像をクイズとスライドで学ぶ ほか

共 催: 奈良市消防局

会 場: 当館 講堂

対 象: 小学校3~5年生とその保護者

応募方法: 往復はがき(郵便番号・住所・参加者全員の氏名と年齢・電話番号を記入)または、当館ホームページ(専用フォーム)にて受付ます。

受付開始: 7月21日(火) 応募締切: 8月10日(月) 必着

申込・問合せ先: 〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館教育室

TEL 0742-22-4464 FAX 0742-22-7221

- ◆参加費無料。
- ◆定員40組。申し込みが多い場合は、抽選になります。
- ◆参加児童のみ講習終了後に特別展「白鳳」を無料でご覧いただけます。



## ❖ 公開講座 ❖

### ■開館120年記念特別展「白鳳 ―花ひらく仏教美術―」

8月8日(土) 「天武・持統天皇の理想の都―藤原宮と新益京―」

木下 正史氏(東京学芸大学名誉教授)

8月22日(土) 「東アジアのなかの白鳳仏」

藤岡 穰氏(大阪大学大学院教授)

9月5日(土) 「白鳳寺院を飾った工芸」

内藤 栄(当館学芸部長)

9月19日(土) 「白鳳の童形仏とその周辺」

岩田 茂樹(当館学芸部上席研究員)

時 間：各回とも13：30～15：00(13：00に開場し、入場券を配付します)

会 場：当館講堂

◆定員194名(先着順)。聴講無料。  
ただし入場の際には、特別展「白鳳」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

## ❖ 特別展「白鳳」関連行事 ❖

### ■白鳳フォーラム

日 時：7月25日(土) 13:30～16:10〔予定〕(13:00開場)

会 場：東大寺総合文化センター 金鐘ホール  
(奈良市水門町100番地)

料 金：1,000円

主 催：奈良国立博物館、読売新聞社、NHKブラネット近畿

#### 〔プログラム〕

基調講演「白鳳仏にみる生命の輝き」

金子 啓明氏(興福寺国宝館館長)

パネルディスカッション

「白鳳文化の時代背景 ～激動の時代と仏教」

〈パネリスト〉 里中 満智子さん(マンガ家)

上野 誠氏(奈良大学教授)

内藤 栄(当館学芸部長)

〈コーディネーター〉 中村 宏(NHKアナウンサー)

◆定員300名。  
フォーラムのチケットは、6月1日(月)からローソンチケット(TEL 0570-084-005、Lコード57594)と当館観覧券売場で限定300枚を販売しています。全席自由席です。フォーラムのチケットを特別展「白鳳」会期中に当館観覧券売場で提示すると、当日券料金の各300円引きになります。(他の割引併用不可)

### ■講演とコンサート 白鳳を五感で感じる

日 時：8月21日(金) 14：00～15：30

(13:30に開場し、入場券を配付します)

会 場：当館講堂

#### 〔プログラム〕

講 演 「白鳳文学論断章」 上野 誠氏(奈良大学教授)

コンサート「奈良、過去・現在・未来」 デュオ「はろばろ」

◆定員194名(先着順)。聴講無料。  
ただし入場の際には、特別展「白鳳」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

### ■特別展「白鳳」親子鑑賞会

日 時：8月25日(火) 13:30～14:15

場 所：当館講堂

講 師：岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆解説終了後は、展覧会を自由に鑑賞しながら、親子鑑賞会専用のワークシートに取り組んでいただきます。

応募方法：はがきかファクスに、保護者の氏名(2名まで)・児童の氏名(原則小学生2名まで)と学年・郵便番号・住所・電話番号を書いて、以下の宛先にお送り下さい。応募は1組4名まで。

申込・問合先：〒530-8551(住所不要)読売新聞大阪本社  
文化事業部「白鳳展親子鑑賞会」係  
FAX 06-6366-2370 TEL 06-6366-1843

◆定員180名。先着順で受け付け、保護者に参加証を送ります。応募が定員に達した場合は、当館ホームページで発表します。  
参加児童は無料で展覧会を鑑賞していただけます。保護者の方は受付で本展の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

### ■薬師寺僧侶による法要・講話

日 時：7月30日(木)、8月27日(木)、9月10日(木)

いずれも法要は14:00から、講話は14:30～15:30

会 場：法要は当館展示室内、講話は当館講堂  
(講話は定員194名：先着順)

◆いずれも、当日特別展「白鳳」をご観覧いただいた方にご参加いただけます。

### ■興福寺僧侶による法要

日 時：8月18日(火) 10:00～10:30

会 場：当館展示室内

### ■スタンプラリー

特別展「白鳳」会期中、展覧会と白鳳時代にゆかりの深い興福寺、薬師寺、法隆寺を巡るスタンプラリーを実施します。

展覧会と2寺院のスタンプを集めればオリジナルの記念品をプレゼント!

詳細は当館ホームページで。

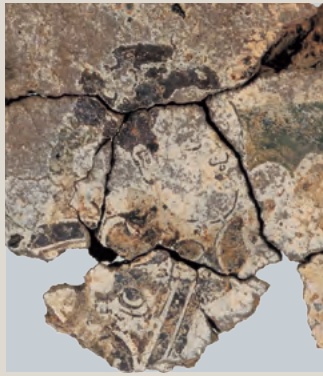
### ◆奈良国立博物館賛助会

平成27年6月30日現在、一般会員(個人)45名、一般会員(団体)18団体、特別会員4団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。

### ◆キャンパスメンバーズ

平成27年6月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学、関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都産業大学、京都産業大学附属高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学部  
(以上、五十音順)



## 壁画片「神将」 上淀廃寺出土品

長22.0cm、幅12.0cm  
白鳳時代(7~8世紀)  
鳥取・米子市教育委員会

平成3年(1991年)、日本最古級の仏教壁画発見というニュースが全国に流れた。法隆寺金堂壁画に並ぶ貴重な古代絵画として、この「伏し目がちな神将」がテレビや新聞で大きく紹介されていた。「古代史ファン」歴の長い方なら一私もその一人であるが一ご記憶されているに違いない。

この壁画片は、鳥取県米子市、日本海を臨む古代寺院、上淀廃寺の金堂跡から出土したものである。創建は白鳳時代(7世紀後半)。伽藍は金堂一つに塔が三つ並ぶ(うち一つは心礎のみ)という特異なもので、本尊は粘土で作った如来像、特に奈良時代には丈六(1丈6尺/坐像で約2m40cm)の像を安置したと推測されている。

描かれた人物は、胸に甲を付け、髪を結った神将の姿である。伏し目がちに見えるのは、悲しんでいるのではなく、火災の熱によって瞳や上瞼の顔料が消滅し、ベンガラ朱で引かれた下瞼の線だけが残ったためである。本来は目をむくコワイ顔の神将であったはず。火災によって彩色の多くが失われ、絵の印象も変わってしまったが、逆に高熱が壁画を陶器のように焼き締めたので、千年経った今でも姿は残った。災難が生んだ奇跡といえよう。

壁画の全貌を知るにはパズルのピースが足りないが、如来を中心に菩薩や僧、神将たちが集まる「説法図」や「浄土図」であつたろうと想像されている。絵の中には、法隆寺金堂や高松塚古墳の壁画との共通性があるという。都から離れた伯耆国でも優れた画工が活躍していた証拠であり、白鳳美術の水準を示す貴重な品である。古代史ファンでなくとも、ぜひこの神将さんにお目にかかってほしい。

吉澤 悟(当館学芸部列品室長)

## 展示品の みどころ

## 薬師如来坐像

重要文化財  
銅造 鍍金  
像高91.0cm  
白鳳時代(7~8世紀)  
千葉・龍角寺



江戸時代、元禄5年(1692)の火災で損傷し、頭部以外は失われ、現在の体部は元禄10年(1697)の本堂再建時に铸造して補われたと考えられる。頭部は、蠟型一鑄で、銅厚は薄く均等で、像内の鑄肌も平滑である。

切れ長の目や、稜線の立った鼻筋など、白鳳時代の仏像の特徴が見られ、東京・深大寺釈迦如来倚像との共通点が指摘される。特に目を二重瞼に表し、目尻を側面まで長く表す点は、本像の際立った特徴である。また、眉や唇の輪郭の内側に沿って段差を表し、顔の輪郭を際立たせている点や、面長でふくやかな頬に、顎の括りを表す点は、薬師寺金堂薬師三尊像などと共通することも注目される。

龍角寺は、5世紀から7世紀末に及ぶ龍角寺古墳群に接して所在し、境内から、法起寺式の塔・金堂を持つ遺構や古瓦が出土している。この一帯は印波国(現在の千葉県印旛郡)の中心地域であり、同寺は印波国造の一族により創建されたと考えられる。出土瓦の編年からは、創建年代は650年から660年代と言われている。しかし、龍角寺の縁起類には同寺は和銅2年(709)の創建と伝え、鑄造技術や造形的なレベルの高さから、制作時期についてはなお検討を要する。

頭部のみとはいえ、本像のような完成度の高い金銅仏が伝存している意義は、極めて大きい。

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆7月18日~9月23日 特別展「白鳳 -花ひらく仏教美術-」にて展示

### 開館日時(7月~9月)

■開館時間/午前9時30分~午後5時  
※特別展「白鳳」会期中は午後6時まで、毎週金曜日と8月5日(水)~15日(土)は午後7時まで  
※入館は閉館の30分前まで

■休館日/  
毎週月曜日、7月21日(火)、9月24日(木)  
(7月20日、8月10日、9月21日は開館)

■特別無料開放のお知らせ  
~7月16日(木)、9月25日(金)~10月下旬の間は、  
庭園・茶室・仏教美術研究センター・関野ホール(天候等により公開中止の場合あり)  
青銅器館

### 観覧料金 特別展「白鳳 -花ひらく仏教美術-」

|          | 一般     | 高校・大学生 | 小・中学生 |
|----------|--------|--------|-------|
| 個人(当日)   | 1,500円 | 1,000円 | 500円  |
| 前売       | 1,300円 | 800円   | 300円  |
| 団体サマーレイト | 1,200円 | 700円   | 300円  |

※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は7月17日(金)まで。  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。  
※サマーレイト券は、毎週金曜日と8月5日(水)~15日(土)の午後5時から入場できるチケットです。(当館観覧券売場のみで、午後5時から販売します)  
※青銅器館は無料です。  
※なら仏像館は、改修工事のため休館中です。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。  
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円分の切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

